

「健やか親子21」における目標値に対する暫定直近値の分析・評価

課題3 小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備				
【保健医療水準の指標】				
3-2 全出生数中の極低出生体重児の割合 全出生数中の低出生体重児の割合				
策定時の現状値	ベースライン調査等	目標	暫定直近値	調査
極低出生体重児0.7% 低出生体重児8.6%	H12人口動態統計	減少傾向へ	極低出生体重児0.7% 低出生体重児9.1%	H15人口動態統計
データ分析				
結果	○暫定直近値が目標に対しどのような動きになっているか、留意点を含み記載。			
分析	○施策や各種取組との関連を見て、データの変化の根拠を分析し記載。			
評価	○目標に対する暫定直近値をどう読むか。			

「健やか親子21」における目標値に対する暫定直近値の分析・評価(例)

課題3 小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備				
【保健医療水準の指標】				
3-2 全出生数中の極低出生体重児の割合 全出生数中の低出生体重児の割合				
策定時の現状値	ベースライン調査等	目標	暫定直近値	調査
極低出生体重児0.7% 低出生体重児8.6%	H12人口動態統計	減少傾向へ	極低出生体重児0.7% 低出生体重児9.1%	H15人口動態統計
データ分析				
結果	超低出生体重児の割合はベースライン調査時、平成15年、ともに0.7%であり、変化がなかった。一方、低出生体重児はベースライン時に8.6%であったが、平成15年は9.1%と増加していた。			
分析	目標である減少傾向を達成しておらず、むしろ、増加傾向にある。低出生体重の要因として、多胎児や先天異常などの胎児の要因の他に、妊娠中の感染症や妊婦の喫煙、妊娠中の体重増加不良が挙げられている。女性の喫煙率の増加や妊娠中の過度のダイエットが増加の要因と考えられる。			
評価	低出生体重の危険因子を取り除く取り組みにより、目標の達成は可能と思われる。			

「健やか親子21」における目標値に対する暫定直近値の分析・評価(例)

課題1 思春期の保健対策の強化と健康教育の推進				
【保健医療水準の指標】				
1-3 十代の性感染症罹患率				
策定時の現状値	ベースライン調査等	目標	暫定直近値	調査
性器クラミジア感染症 男子196.0 女子968.0 淋菌感染症 男子145.2 女子132.2 (有症感染率 15～19歳) *①性器クラミジア 5,705件 ②淋菌感染症 1,680件 ③尖圭コンジローマ 660件 ④性器ヘルペス 486件 (20歳未満定点医療機関)	H12「本邦における性感染症 流行の実態調査」熊本悦明 班	減少傾向へ	同様の調査なし *定点観測による件数は ①6,205件 ②2,204件 ③ 750件 ④ 569件	定点医療機関報告
データ分析				
結果	○比較が難しい ○増加傾向にあることが示唆される			
分析	国立感染症研究所によると性器クラミジアは漸次増加傾向にあったが2002年以降横ばいであるが、今後再び増加に転じるかどうかは経過を観察する必要があるという。年齢別では男女ともに20～24歳が最も多く、女性で15～19歳が20%を占めていることが特徴である。対策としては啓発と予防行動の実践であり、学校、地域で様々な取り組みが行われているが、効果の分析は難しい。			
評価	熊本班の研究はH15年度で終了しており、H16年度は同様のデータを出す研究はない。今後この指標をどのように追っていくかが、大きな課題である。また、目標を達成するためには家庭、学校、地域の連携による質、量ともに更なる取り組みが必要と思われる。			

「健やか親子21」における目標値に対する暫定直近値の分析・評価(例)

課題2 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援				
【行政・関係団体等の取組の指標】				
2-9 不妊専門相談センターの整備				
策定時の現状値	ベースライン調査等	目標	暫定直近値	調査
18ヶ所	母子保健課(H13. 3月現在)	2005年までに 全都道府県	51カ所	母子保健課(H16)
データ分析				
結果	不妊専門相談センターの整備は順調に進んでおり、平成16年度には全都道府県に設置された。			
分析	数値的には目標を達成した。しかし、センターの質についての評価がされていない。			
評価	不妊相談センターの質についての評価が必要である。スタッフの状況、利用状況、利用者の満足度など、質の評価方法に関する検討が必要である。			